

# 友だちといっしょに行動できるための指導

白田 季敏子

## 1. Y子の実態と指導仮説

(1) Y子の実態----Y子は環境の変化に対応しにくく、集団からはずれがちであるため、入学当初より級友から疎外されることが多く、一時期、登校拒否のような状態になったことがある。表出言語が少なく自分の気持ちを適切に表現しにくいこと、こだわりが強いこと、家庭的なしつけが行き届かず心身ともに鍛えられていないことなどが原因で、要求等をパニックという形で示す習慣が身についてしまっている。しかし、切る、敬えるといった作業は好きで、気に入ったことならある程度は取り組めるし、友だちがせきをすると背中をさす、たりするやさしさを持っている。

・昭和44年9月6日生、16歳

・自閉的傾向

・身長 160cm, 体重 40kg

・父・母・姉の4人家族

・IQ 36以下(WISC)

・SA 6:9 SQ 42

(2) 指導仮説----Y子の行動を観察した結果、見通しがつかないこと、自信がないこと、自分の気に入らないことはしりごみをしてやりたがらず、強制するとパニックをおこすが、気に入ったことならある程度は継続して取り組むということかわかった。そこで、課題が適切であり、やり方がわかって見通しさえつけばY子も他の生徒と同じようにあるいはいっしょに行動できるのではないかと考え、将来の社会的自立のために「友だちといっしょに行動できる」という個人目標を設定して、次のような指導方針をたてた。

(ア) 作業を中心に指導する----課題を適切に与え、指示を具体的にして見通しをもたせ、取り組みやすくする。

(イ) Y子と友だちや教師との間のコミュニケーションをはかる----教師や特定の生徒とのパイプをつなげ、いっしょに行動する機会を多くするとともに、表現力をつける。

(ウ) 忍耐力を養う----どうしても必要と思われることは、時間がかかっても、パニックをおこしても必ずさせるようにする。

(エ) Y子の特性を生かす----Y子の好きな、切る・数えるとい  
った作業があれば割り当てて担当させ、自信をもたせる。

(オ) 強化方法----励ます。失敗しても否定しないで、良くでき  
た時だけほめるようにする。一人一人の特性を認め合う学級  
づくりをする。

(ア)~(オ)のような指導を続けることによって、Y子の限界にせま  
りつつ、変容をめざしていくことにした。

2. アプローチのしかた----学校生活の全般を通して取り組むが  
特に次の3つの場面に重点をおいて指導の手立てを加えること  
にした。

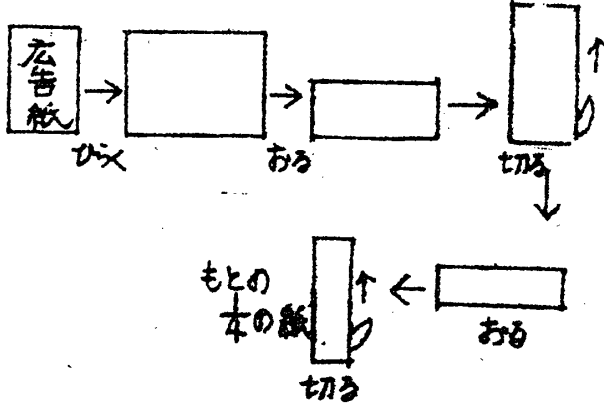
( )内は1の(2)の項に対応

	職業	調理	日常生活
1 学 期	<p>&lt;陶芸&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>得意な面を伸ばす(ア,エ)</li> <li>粘土のひも作りが上手である →ひもをつむ作品を多く作る</li> <li>表現力をつける(イ)</li> <li>粘土がなくなると時→「下さし」</li> <li>出入りの挨拶</li> </ul>	<p>&lt;おやつ作り&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教師が指示をして 作業を割り当てる(ア)</li> <li>場を離れないよう 声かけを多する(イ)</li> </ul>	<p>&lt;そうじをきちんとする&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ちりとり専門にする(ア,イ)</li> <li>友達との関わりを促す</li> <li>そうじはいやからでも 必ずさせる,ゲーム化 して喜んでさせる(イ,ウ)</li> </ul>
2 学 期	<p>&lt;被服&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>適切な課題を与える(ア,エ)</li> <li>→喜び, 成功感, 自信, 意欲</li> <li>指示を具体的に示す, 補 助を適切にする(ア)</li> <li>→根気, 技能の向上</li> <li>表現力をつける(イ)</li> <li>→報告, 質問, 要求の仕方 を身につける</li> </ul>	<p>&lt;軽食作り&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>切る作業を割り当てる(ア,エ)</li> <li>→みんなと同じ場を離 れないで, ある程度の時 間1つのことに取り組む</li> <li>K子と同じ班にする(イ)</li> </ul>	<p>&lt;生活ノートをきちんと書く&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>帰りの会の時, 今日の日 習の欄をいやからに 書く(ウ)</li> <li>わからない字は読ん でやる(ア)</li> </ul>
3 学 期	<p>&lt;被服&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>少し困難な課題にも 取り組ませる(ア,ウ)</li> </ul>	<p>&lt;副食作り&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>友達の様子をみなか ら1人でも調理に 取り組む(イ)</li> </ul>	<p>&lt;毎日の日記をきちんと 書く&gt;(イ,ウ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>家庭との連携を はかる</li> </ul>

3. 実践例---被服(パーパー・バスケット作り---9月~12月)を通して、次のような実践を行った。

(初期の姿)

- 少し作業をするたびに広告の中をのぞきこんでいて仕事かほかどうない
- 何度も促される
- 広告の紙を切る時、紙の折り方をまちがえたり破いたりすることが多い
- 紙を筒にまく作業は指先にかか入らなくてできない
- 編みあげるのもできない



(教師の事前の手立て)

- ① (1) 紙を切る作業を専門にさせる
- 紙の折り方、はさみの使い方を正しく教える
- 紙の枚数を区切って、5枚ずつ与える
- ① (2) 切っていない紙を置く場所、切れた紙を置く場所を指示しておく
- ② (2) 「できました」と報告するよう指示しておく。

(作業の途中で)

- ① (1) 紙の折り方、切り方が不十分な時は、手をそえて補助する
- ① (2) 紙がなくなったことに加え、報告を促す数を教えて与え、関心をひく
- ② (1) 手を休めていたら促す、励ます
- ③ 上手に切れたらほめる
- ④ 報告できたらほめる

(最終の姿)

- 仕事量が増え、手を休める時間がほとんどなくなった
- 紙の折り方も切り方も正確になり、ミスがほとんどなくなった
- 与えられた量がすんだら「できました」と報告するようになった
- 教師が枚数を区切って与えなくても、目の前の仕事かすむと報告したり、自分で紙を抜き出して切るようになった
- 他の生活場面でも報告できる時もあるが、まだ応用はきかない

#### 4. まとめと今後の課題

(1) 作業学習(被服)----初めて接する作業にはつまずきが多いため拒否することがあるが、少し待てばまた取り組むのであせらずじっくり対応することにした。指示の仕方をより具体的にすることによって、初めはいやがっていた作業でもかなりの時間取り組めるようになった(例----フェルトひもを三つ編みにする、真結びをする)。つまずきがあってもだめとかそうじゃないとかの否定の言葉は使わないようにし、よくできた時のみほめるようにすることも丫子の指導にとって有効である。一つのことをのみこむまでにはかなりの時間と補助が必要であり、教師が他の生徒に手をとられていると作業が続けられないことが多いことが問題点として残る。

(2) 生活(調理)----初めの頃はみんなと同じ場から離れてうろうろ歩き回っているといった状態が多かったが、切る係を割り当てることによって、与えられた作業が終わるまではいいに集中して取り組むようになった。また、丫子が最も親しみをもっているK子と同じ班にすることによって、友だちが作業をしている様子を見守る時間が長くなったようである。

(3) 日常生活指導----そうじ時間ちりとりを専門にさせることによって、ごみが集まると級友が「丫子さん」と呼び、丫子も「はい」ととんで行くことが、友だちとの関わりをふやすという面で効果があったようである。ぞうきんかけをいやからなくなり、みんながふき始めると同じようにぞうきんを持って喜んでふくようになった。しかし、書くことはたいへん苦手であり、まだ教師が強制しないと生活ノートが書けない状態である。

(4) 全般的にみて、丫子の生活状態が落ち着き笑顔がよく見られ出すとともに、パニックをおこすことがへってきた。また、友だちに自分から働きかけたり、同じように行動できる場面も上記以外にも多くみかけられるようになった。しかし、依然として自分の言いたいことを人に伝えられずにいることが多いので、今後とも表現力を伸ばすことに力を入れていきたい。